

□第4次岩手県立大学情報システム整備計画策定委託業務について

1 委託業務名

第4次岩手県立大学情報システム整備計画策定委託業務

2 業務目的

これまでの岩手県立大学**情報システム整備計画**(以下「整備計画」という。)の**取組成果と課題**、更には**最新の技術動向を的確に捕捉**し、第4次整備計画として、平成25年度から平成29年度までの5年間における**中期的な本学情報システム**(以下「学内情報システム」という。)の**整備のあり方を明確化**すること。

3 委託期間

契約締結の翌日から**平成25年3月15日(金)まで**。

4 委託業務の概要

平成25年度から平成29年度までの5年間を取組期間とする第4次整備計画策定に係る諸調査の実施、調査結果等とりまとめ、計画素案作成等。

5 成果物及び納品場所

(1) 成果物

第4次岩手県立大学情報システム整備計画書

(2) 数量及び形式

ア A4判用紙にカラー印刷した成果物を25部納品するとともに、成果物作成に用いた**全ての電子ファイル**について、CD-R、DVD-R等、適切な**外部記憶媒体**(以下「媒体」という。)に**格納したもの2式を納品**すること。

【成果物配布先】理事長等役員5名、看護学部等7学部長、教育研究支援本部等4本部長、情報システム運営センタ3名、予備5部及び原本1部

イ 電子ファイルの作成に当たっては、原則として、**Microsoft Office Word、Excel、PowerPoint**及び**Visio**(いずれの形式も2007以上のバージョンとし、OSは、Microsoft Windowsで稼働するものに限る。)のいずれかを**用いる**こと。

ウ 媒体への電子ファイル格納に当たっては、イの**原形式によるもの**とし、Explorerで当該ファイルを一覧表示した際に**成果物の構成順に表示されるよう、ファイル名を工夫**すること。

エ これと併せて媒体には、**ウの電子ファイルを**、FujiXerox DocuWorks(7.2以上のバージョンのもの。)を用い、「**バインダー形式**」の**単一電子ファイル**(拡張子「xbd」。)に**変換・集約化**したものを作成し、格納すること。

(3) 納品場所

公立大学法人岩手県立大学**企画室分室(メディアセンターA棟4階メディアルーム内)**

6 学内情報システム整備の経緯

学内情報システム整備の詳細な経緯については、別紙様式3「資料開示申請書(兼機密保持

誓約書)」により開示申請があった者に開示。

- (1) 学内情報システムについては、平成8年度に策定した「岩手県立大学学内情報システム**基本構想**」に基づき、

- ア 将来的な技術動向を見極めた上で、
- イ **最先端の技術を駆使し、**
- ウ **その変化に耐えうるもの**

として、**5年ごとに整備計画を策定し、整備。**

- (2) その結果、

- ア **国内でも先進的な情報システムが整備され、維持・運営に多額の経費を要する状況で、**
- イ **第2次整備計画以降、経費縮減に取り組んでいるものの、依然として「高コスト体質」。**

7 第4次整備計画における学内情報システム整備方針

- (1) **抜本的経費縮減により「高コスト体質」からの完全なる脱却を図るため、これまでの学内検討結果を踏まえた学内情報システムの再構築や、サーバ等ハードウェア資源の効率的活用による「学内情報システム最適化」***を積極的に推進する一方で、

※情報システム最適化に当たっては、**必要な学内情報システムのサービス品質を可能な限り低下させないよう、努める。**

- (2) 利用者意見を踏まえ、**教育研究の全学的向上・発展に資する新たなサービスの創出**を図る

こととしている。

8 企画提案コンペ仕様

- (1) 企画提案コンペの主旨

上記「学内情報システム整備の経緯」及び「第4次整備計画における学内情報システム整備方針」を踏まえ、**提案者が想定する次期システム整備について、次に掲げる項目に関する提案を通じ、整備計画策定の協働者として、最も適性を有する者を選定しようとするもの。**

- (2) 企画提案書の主な記載項目及び審査項目

ア 学内情報システムの最適化

想定する次期システム整備のあり方や学内情報システム最適化の実現策等について審査する。

なお、**システムの運用形態については、オンプレミス(自己保有)、プライベート・クラウド、パブリック・クラウド、これら複合型等、いずれを問わないが、学内情報システムの十分な機密性、保全性及び可用性を確保しつつ、抜本的経費縮減が図られるものとする。**

また、**提案内容は、必要な学内情報システムのサービス品質を可能な限り低下させないものであること。**

イ 新サービスの創出

想定する**教育研究の全学的向上・発展に資する新たなサービスについて、考え方と併せて審査する。**

ウ 利用者の利便性向上に関する提案等

利用者(学生及び教職員)の利便性向上に関する提案、その他改善策等についての提案を審査する。

エ コスト目標額について

第4次整備計画期間内(平成25年度から平成29年度までの5年間)におけるコスト目標額について示すこと。

なお、併せて積算根拠を示すこと。

9 委託業務の内容

現時点における委託業務の内容は、次に掲げるとおり。

なお、整備計画策定に当たっては、「10 整備計画策定に当たっての組織体制と役割」に掲げる組織体制を整備し、これら組織間で協議・検討を重ねることとしており、採用された企画提案どおりに整備計画が策定されるものではないこと。(ただし、企画提案の内容に基づき精査した結果、委託業務の内容が変更となる場合は、あり得る。)

(1) 学内情報システム最適化に関する事項

ア 学内情報システムの稼働状況把握。

- ① CPU利用率、メモリ利用率等のインベントリ把握。
- ② バックアップ等システム運用状況の把握。

イ 「学内情報システム更新要否を判断するための整理資料」※において要検討とされたシステムの検討案作成及び全学合意形成支援。

※次期整備計画の策定に先立ち、現在の学内情報システム全体の適正化を図り、今後の整備方針及び運営体制を決定するため、全学的視点でサービス継続の可否を検証した結果をとりまとめたもの。(H22年09月)

ウ 他団体及び最新技術動向の把握。

- ① 他団体に対するアンケート調査の実施。
- ② アンケート調査結果を踏まえた先進地調査の実施。
- ③ 最新技術動向の把握。

エ 上記結果に基づくシステム運用形態及びサーバ等ハードウェア統合案の検討・作成。

- ① システム運用形態については、オンプレミス(自己保有)、プライベート・クラウド、パブリック・クラウド、これら複合型等、いずれを問わないが、情報システムの十分な機密性、保全性及び可用性を確保しつつ、抜本的経費縮減を図ること。
- ② 統合後のハードウェア及びソフトウェアに求める大様な要件等についても記載するとともに、その考え方を示すこと。

(2) 教育研究の全学的向上・発展に資する新たなサービスの創出に関する事項

ア 他団体及び最新技術動向の把握。

- ① 他団体に対するアンケート調査の実施。
- ② アンケート調査結果を踏まえた先進地調査の実施。
- ③ 最新技術動向の把握。

} 9(1)ウ再掲。

イ 利用者(教職員、学部、学生等)意識等の把握。

- ① アンケート調査の実施。
- ② ヒアリングの実施。

ウ 上記結果に基づく新サービス導入計画案の検討・作成。

(3) その他の事項

ア (1)及び(2)の結果に基づく

- ① **関連経費試算及び縮減額試算。**
- ② **整備スケジュール検討・作成。**

イ 成果物の学内合意形成に関する支援。

ウ その他整備計画策定に関する調査、検討、資料作成等。

10 整備計画策定に当たっての組織体制と役割

整備計画策定に当たっての組織体制とそれぞれの役割については、おおむね次のとおり。

